

畜産 日本も「動物福祉」

家畜を、より快適にストレスなく飼育しようという動きがじわじわと広がっている。「アニマルウェルフェア（動物福祉、AW）」という考え方だ。欧米が先行していたが、2020年の東京五輪・パラリンピックの食材調達でも求められることになった。国内の畜産業も向き合わざるを得なくなりつつある。

丸一養鶏場は、埼玉県寄居町の荒川近くにある。鶏舎に入ると、たくさんの鶏が寄ってきて足をつついた。「普通は鶏がおびえるんですけどね」と、一柳憲隆社長(46)。

国内の採卵鶏は、あまり身動きできないカゴに入れる「バッテリーケージ飼育」が大半だ。鶏舎内はカゴが何列も連なり、エサや水の供給、産んだ卵とフンの運搬も自動で行う。足元はフンが落ちるよう編み目状だ。効率よく生産できる。一方で、「正常な行動ができないことがストレスと

五輪の食材条件に明記されジワリ



丸一養鶏場の鶏舎内。仕切りのカーテンの奥には暗い小部屋があり、鶏が卵を産む＝埼玉県寄居町、柴田秀並撮影

なって異常行動につながりうる」と東海大の伊藤秀一教授(応用動物行動学)は指摘する。

一柳さんの鶏舎では鶏が自由に動き回る。「照明を徐々に暗くして自然の1日を再現します」。日中は屋根や網で覆われた屋外にも出る。鶏舎内は止まり木があり、暗くなることで眠る。卵はカーテンがついた小部屋で産む。産卵のとき暗い所を好むからだ。

きっかけは1999年のドイツ視察。欧州ではこうした飼育が広がっていた。

道)は乳牛の独自の認証制度を始めた。11月までに6度及び、2と3割高く売られ農場を認証。滝川康治理事「することが多い」。

割高な売値・低い認知度課題

AWは欧州で60年代ごろから関心が高まった。経済効率性追求の一方で、家畜の健康にも配慮すべきだ、というものだ。とくに鶏のケージ飼育や、母豚を狭い柵に閉じ込めることが批判された。

欧州連合(EU)では12〜13年にいずれも禁止になった。米国でもカリフォルニア州などでケージ飼育を規制する法律ができた。米ウォルマートは25年までにケージ飼育の卵を仕入れないと表明している。

国内ではAWの広がりには限定的だったが、今年、東京五輪・パラリンピックの食材の調達条件でAWについて明記された。生産工程の管理規格である「JGAP」認証を取得することなどが条件になった。AWでは「飼養環境の改善」に取り組むことが項目に入る。

日本貿易振興機構(JETRO)で米国の畜産を調べた。東海大の伊藤教授は「日本では『殺さない』に特化した動物愛護は広がったが、畜産は置いてけぼりだった」。丸一養鶏場の一柳さんは「食べ物のつくり方をますます知って、多様な選択から自分で選んでほしい」と話す。(柴田秀並)

ご意見は、keizai@asahi.comまで。